

第2回県立高等学校改革懇談会（いわき総合・好間）記録

日時 令和4年11月28日（月）15時00分～16時30分
会場 好間高等学校 視聴覚室
傍聴者 3名

進行

- (1) 開会
- (2) 主催者挨拶(菅野県立高校改革監)

県立高校改革監の菅野でございます。委員の皆様には、本日もお忙しいところ、御出席賜りまして、誠にありがとうございます。いわき総合高校と好間高校の統合に関しましては、令和7年度の統合という事で、県教育委員会の計画を示させて頂いておりますが、両校の学校運営、そして生徒、教職員に対します、変わらぬ御理解と御支援を賜っておりますこと、あらためて、御礼申し上げます。

7月21日に開催しました第1回県立高等学校改革懇談会では、急激に進む少子化の状況など、県立高等学校改革後期実施計画を策定した背景や経緯、いわき総合高校、好間高校の現状、そして、これらを踏まえ、子どもの学習環境を充実させ継続的かつ安定的に、その場を提供するため、両校を統合する方向性について御説明させていただきました。

皆様からは、「好間高校の生徒たちの中には、統合によって通学する校舎が変わるなど環境の大きな変化に対応できないことが危惧される。」という御意見や、「地域の子もたちや地元産業の声を聞きながら、地域の特性も取り入れた特色化を図ってほしい。」「生徒が地元根付くような人材育成が大切である。」など、様々な御意見を頂戴しました。

本日は、前回の懇談会で頂いた御意見や御要望に対する県教育委員会の考え方をお示するとともに、皆様からの御意見を賜り、その検討を深めて参りたいと思っております。本日も、忌憚のない御意見を賜りますよう、是非とも、よろしくお願い申し上げます。

- (3) 説明（担当）
- (4) 懇談

<懇談>

【菅野崇】（県立高校改革監）

前回頂戴した、御意見などを基にして、また、地域の子もたちの声も参考にしながら、これまで、学校と県教育委員会で検討した中身について説明した。大きく分けると、統合校は「校舎方式」を採用して、現在、入学されている生徒達は、それぞれの校舎で学んでいくという考え方、それから、統合校の魅力化、あるいは、教育内容について考えていることを、若干、盛りだくさんになったが、御説明申し上げた。これらについて、皆様から御意見、御質問をいただき、検討を深めて参りたい。

【前田賢一】（いわき総合高校 PTA 会長）

統合に関するアンケートについてだが、これは、誰を対象に聞いたものか。

【中野正人】（県立高校改革室長）

お手元にお配りしたアンケートについては、内郷一中、内郷二中、内郷三中、好間中、そ

それぞれの生徒に依頼した。資料2枚目の円グラフで、アンケートの結果をまとめている。これは、中学生に対するアンケートで、高校生に対するものではない。

【前田賢一】(いわき総合高校 PTA 会長)

在校生は、どのような気持ちでいるのか、吸い上げるのも良いのではないかと考えている。統合に向けて、好間高校の方も、当然、複雑な気持ちだと思うので、その辺りをアンケートで汲んであげれば、良いのではないかと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

前回の懇談会で「中学生の声も聴きたい」という意見があったので、今回アンケートを取らせてもらった。このアンケートについては、皆さんで意見交換なども実施しており、その中で、当日、先輩の高校生も参加して意見交換させてもらうという場面もあった。それぞれ、今現在の中学生と高校生が考えていることの参考になったと思っている。また、前回、とても良い御意見をいただいて、こういう取組ができたので、私たちも、実施できて非常に嬉しく思っている。これからも、このように生徒や保護者の御意見を聴きながら検討を深めたいと考えている。

【鈴木路人】(いわき市教育委員会学校教育課管理主事)

スケジュールの件について、令和5年11月から翌年1月までの3か月間に、中学2年生と保護者、中学教員を対象とする説明会が予定されている。この説明会について、今の段階で、どのような内容になるのか、具体的な案などがあれば、教えていただきたい。例えば、いわき市だと、小さい学校も含めて38校の中学校がある。中には、中学2年生が不在の学校もあるが、その全部の学校で説明会を実施していただけるのか、それとも、どこか大きな施設で実施して希望者を募るのか、今の段階で分かれば教えていただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

具体的な検討は、これからである。前期で実施した例を紹介すると、例えば「湯本・遠野」の統合に際しての中学2年生を対象にした説明会は、大きな会場を借りて、いわき市内の中学校に希望を取った。そして、希望した生徒あるいは保護者を対象とした説明会を、夕方の時間帯を使って開催した。こうした前期の取組を参考にしながら、こちらの説明会も同様に考えて整理していきたい。

【小野匡之】(内郷第一中学校長)

報告させていただく。「中学生の意見を聞く場を設けて下さい」とお願いをして、それを実行していただき、感謝申し上げます。10月の会議の際、本校から参加した3人の生徒が、いわき総合高校での話し合いが終わった後、学校に戻って、校長室に報告に来てくれた。本当に嬉しそうに「高校生や他の中学校の生徒達と意見交換ができて、本当に良い経験になりました」と言っていた。やはり、背伸びする経験というのは、中学生や高校生にとって、とても大事なものののだと感じた。特に、自分達の将来について、地域の方や学校関係の方、皆さんが耳を傾けてくれているといった姿勢を示していただいたということが、大きな励みになったようだ。

【菅野崇】(県立高校改革監)

私達も非常に貴重な御意見を頂いたことにより、今回、中学生の御意見を伺う場面を設けることができた。おかげさまで、検討した教育内容の中に、そのような声を取り入れて議論を進めることができたと考えている。私達にとっても、非常に貴重な良い経験であったと、改めて思っている。これからも、このような姿勢を大切にしていきたい。

【会田和子】(有識者)

資料を拝見して、いわき総合高校で現実的に取り組んでいることをベースにして、いろいろ展開していこうということで、何も申し上げることは無い。今行っている「キャリア指導」については、今のベースが、きちんとあった上で先生方にノウハウがあるので、おそらく、3年後から5年後くらいになって、着実に何らかの成果が出ていくものと思っている。

ただ、この頃、ずっと見てきて、心配になることが、いくつかある。まず、現在の先生方を見ると、本当に忙しい様子である。いわき総合高校の先生は、多様な取組を行っているが、それに対して、今の先生方が持っている知識や専門性で対応するには、限界があると思う。これを今後、実現していく時に、足りない所は、地元の専門家が連携という形で協力してくれると思うが、それで、しっかりと実現していけるか心配だ。「時間の壁」とか「本来やらなければならないことが、やりきれていない」という現実を見ていると、期待を持ってスタートする時に、やはり「改革」であるから、現状の指導要領の中で考えるだけではなく、教員の採用まで含めて検討しなければならないのではないかと。

それから、もう一つ、とても気になるのは、「キャリア指導」というと、どうしても職業と直結する私のような経済人の意識をととても気にしていて、総合学習もそういう所でワークショップなどを展開して就職しやすいようにしようと、会社の方に目を向けて下さっているが、現実として、基本的な学力のレベルがどんどん下がっているのが見受けられることだ。これをどのように底上げして、すき間を埋めるようにするのか心配している。落ちこぼれていく子どもは必ずいると思う。それだと「全ての生徒に豊かな学びを」ということから外れていってしまうようになる。今の世代は、デジタルネイティブ世代であるから、新しいITツールを使うなり遠隔でやるなりして、補講させるような新しい学びも県主導で検討いただいた方が良いのではないかと率直に感じている。私どもも、ワールドワイドラーニングという、遠隔で全国の高校生に対するアドバイスやボランティアで指導できる人の派遣といったことをやっている。おそらく、いわきの商工会の人達も「言ってくれば何でもやります」という気持ちを持っていると思うので、新しい学びの連携組織を具体的に今から仕掛けておく必要があると感じている。

もう一つというと、「多様な他者と協働できる力」、「主体的に行動する力」などを養い、企業に送っていただいたとしても、基本的な学力が低ければ、企業でも落ちこぼれになってしまい、そのツケが、最終的には企業に来てしまう。だから、学校では、「基礎的な学力」をきちんと身に付けさせることに8割の力を注ぐべきと思う。そして残りの2割が「キャリア指導」だと思う。また、「主体的に」とあるが、今、キャリア形成においては、「思考する方法論」を教えている。思考する方法を学んでもらって、その知識を持っていれば、就職に関係のない芸術やスポーツをやっている子であっても、そういう力を持っていれば企業は採用してくれる。つまり、ICTだけで企業と直結するわけではない。ICTは、20年前の指導と、今求められる内容で全く異なるので、どの辺りにレベルを置いて検討しているのか気になるところだ。その辺り、表現の違いだけであれば良いが、思考する方法論を学ばせるのが、高校では優先ではないかと思っている。

また、今のいわき総合高校は、様々な部分でボランティア活動を非常に熱心に進めているし、スポーツの領域でも成果を出しているので、様々なノウハウを蓄積していると思う。それらを引き継いでほしい。

もう一点、「地域を支える核となり活躍できる人材」とあるが、これは全国で叫ばれている事である。地方活性化の視点に立てば、「いかに、地域を愛してくれて、ずっとここで働いてくれる人材を多くするか」という部分にフォーカスされる。ただ、私たちも含めて、みんなが「地域について分かっているようで分からない」状態なので、「ふるさとを学ばせるカリキュラム」というジャンルをあえて作って、「地域を知る」というカリキュラムの検討を進めている地域が多い。地域と協働することを実践で学べると、非常に豊かな人材になって、いずれ外に出ても戻ってくるのではないかと思うようになった。

【中野正人】(県立高校改革室長)

まず、「両校の先生方は非常に多忙である」という点について、今後、統合校も総合学科の学校となれば、より多様な学びに対応した取組のため、多忙化はより際立ってくるのではないかとこのことで、採用まで含めて考えていくべきだという御意見を頂戴した。御意見のとおり、非常に大切な課題だと私たちも同様に考えている。

現在、「働き方改革」が叫ばれ、その対応で、全県的に学校では「どう対応していけば、先生方が余裕を持って子ども達に対峙できるか」を真剣に考えながら取組を始めている。そのために、カリキュラムへの対応という部分で苦慮されている先生もいるし、あるいは、部活動の指導で時間が割かれている先生もいると思う。そのような様々な部分を勘案しながら、統合校においても、先生方が、生き生きと生徒達に対峙してもらえるようにするべく、今、いただいた御意見は、高校教育課と共有したい。

それから「キャリア指導推進校であるけれども、基本的な学力が必要である」という御意見だが、これは非常に大切な視点であり、進学をするにしても、就職して地域で活躍するにしても、このような所は、しっかりと統合校において押さえたいと考えている。学校の先生方は、目の前の生徒に対して、授業の中では当然だが、放課後の時間などを活用して個別に対応している所もある。お話では「ICT 機器を生徒は持っているので、そのようなものを活用して子ども達に最適な指導を行ってみてはどうか」ということだと思うので、そのような点についても検討させていただきたい。

また、「キャリア指導推進校」ということで、「ふるさとを学ばせる」という御意見を頂戴したが、統合校においても、地域課題に対して、探究的な学びを実践して地域を理解してその地域における課題を発見しながら、解決するにはどういったことが良いのだろうかと考えていくことに主体的に取り組めるような指導を行っていきたいと考えている。そちらについても御意見を頂戴しながら実践に向けて検討を進めさせていただく。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今の御意見に関連して、現在、県の教育委員会では「第七次教育総合計画」を策定して取り組んでいる。その中で、考える方法を学ばせて、自ら課題を解決していく力を養っていくことの重要性を示している。まさに、統合校、あるいは、私たちが取り組んでいる「県立高等学校改革」の中で、そのようなものを実践していくための重要な視点だと受け止めた。是非、これから検討するにあたり御指摘を参考にさせていただきたい。

【伊藤さおり】（好間高校 PTA 会長）

資料 10 ページ、統合後の在校生のケアについて、メリットが「それまで通りの環境で活動できる」ということで、それぞれの校舎に在校生が残る「校舎方式」については分かるのだが、来年、好間高校に入ってくる 1 年生は、統合後、好間高校の 3 年生になる。資料には「交流会、合同行事を実施」とあり、これは令和 6 年と 7 年の間に記載されているのだが、27 ページのスケジュール表を見ると、令和 6 年度の 7 月・8 月に「統合校体験入学」がある。これは統合時、現在の中学 2 年生の子ども達にとっての新しい統合校の体験入学なのか、それとも、来年、好間高校に 1 年生で入る生徒に対しての体験入学なのか伺いたい。

それから「ケア」ということに関して、好間高校に高校 3 年生だけ残った時、文化祭や体育祭は、いわき総合高校の校舎に行って参加するのは分かるが、他の行事は、どのように 3 年生だけでやるのかとても不安である。来年、好間高校に入る 1 年生に対して、「最終的に、3 年生の時は 1 学年しか学校にいない」といった旨を説明することは考えているのか。

【中野正人】（県立高校改革室長）

今の中学 3 年生、来年度、高校 1 年生になる生徒は統合時、高校 3 年生になる学年かと思う。10 ページに示している「交流会、合同行事を実施」については、対象となる生徒は、統合時、「校舎方式」で別々に生活はするが、「一つの学校である」という一体感を持たせるために、交流会あるいは合同行事、それはどのようなものになるかは、これから決めることになるが、そのような行事を設定していきたいと考えている。

そして、「スケジュール」のスライドで「体験入学」が令和 6 年度にあるが、ここに示されている体験入学は、令和 6 年度に統合校を受験して入学する生徒、つまり、令和 7 年度に高校 1 年生になる生徒を対象にして、「統合校はこういう学校ですよ」ということを説明していく行事である。その前年の令和 5 年度には、中学 2 年生の生徒を対象に説明会を重ねて行い、その生徒達が、令和 6 年度に体験入学を通して学校選択をしていくというように段階を経た説明をしていくことを考えている。

【伊藤さおり】（好間高校 PTA 会長）

統合してから、好間高校の在校生は、交流会とかで会うような形になるのか。

【中野正人】（県立高校改革室長）

統合時の 2 年生・3 年生は、統合後、合同の行事を通して交流を図っていくようになると思う。

【伊藤さおり】（好間高校 PTA 会長）

そのようなことは、いつ決まるのか。統合してから決めるのか。

【中野正人】（県立高校改革室長）

それについては、統合前に方針を決めていくようになる。前期の統合校でも、どのようにしていくのかを統合前に検討を重ねて、統合後に「これで、良いでしょうか」と確認した上で実施しているのが現状である。

【荻野靖】（有識者）

以前、湯本高校と遠野高校が統合されて、もう既に始まっている内容かと思う。今回は新

たに、いわき総合高校と好間高校が統合され、その次は、平商業高校と四倉高校が統合されるということだが、各々の偏差値が違う高校同士が統合されるというところ、「どうしてこの高校同士が、統合されるのか」という目的が、私はちょっとわかっていない。「何故、好間高校といわき総合高校が一緒になるのか」というところを、御教示いただきたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

いわき総合高校と好間高校の統合については、地域性を鑑みて、両校が距離的に比較的近いこと、ある程度の地域性を共有しているということも考えたところである。それから、いわき総合高校と好間高校の学びの中身を見ると、いわき総合高校は、御承知の通り、総合学科の高校ということで様々な分野にわたって学びが展開されている。好間高校においては、普通科の高校ではあるが、普通科の基礎学力をはじめとした学びを基本として、大学などにも進学できる生徒もいるし、あるいは、商業などの資格取得をしながら就職を考えている生徒もいるということで、普通科ではあるが、その学びの幅は共通する部分が多いと判断し、統合を考えさせていただいた。

【荻野靖】(有識者)

高校の偏差値は、各々異なる。去年、いわき総合高校の偏差値が47、好間高校が43であった。生徒は、その偏差値を鑑みながら、希望する学校に入学していると思う。そういったところで、例えば、ある高校がレベルの高い高校と統合することになった場合、レベルの高い高校に統合されてしまう高校へ行きたかった生徒は、すごく混乱するのではないかと。それで、統合された後の各高校の位置づけというのは、どうなるのかと思う。例えば、このようなことを言ったら失礼かもしれないが、湯本高校と遠野高校は、明らかに偏差値が違う。でも今回、新たに統合されて、遠野高校に行きたい生徒と湯本高校に行きたい生徒が、一緒になることに対して、入学した生徒から不満が出ているか否かというところが、すごく危惧するところでもある。

それで、今回、いわき総合高校と好間高校が一緒になることに対して、受験される生徒達は、どのように考えているのか、大変、不安に思うところだ。そのようなところは、どうお考えか。

【中野正人】(県立高校改革室長)

まず、偏差値そのものについて、偏差値というのは、県教委で付けているものではない。学習塾などの外部で付けていると思う。私たちとしては、先程言ったような理由も鑑みながら、統合のパターンを考えているが、全ての人たちが「統合、万歳」と言っているかどうかというところまでは、把握できていない。それで「統合して良い学校になるよう、特色化・魅力化を図っていきましょう」というところで、両校の先生方と一緒に考えてさせていただいて、統合後においても、学校運営について何かある場合には、県教委で、様々な助言や力添えをさせていただいているところだ。私たちとしては、「統合校は魅力ある学校にしていきたい」「子ども達からもそのように見える学校にしていきたい」という思いで取り組んでいるところである。そうした魅力ある学校づくりを、今、両校の先生方と一緒に検討を進めている段階である。

【荻野靖】(有識者)

例えば、いわき総合高校と好間高校が統合された後、学校のレベルが、とても上がった。

しかし、学力の低い人、「ここに行きたいけれども行けません」という人たちに対しても、歩み寄っていただけるっていうことでよろしいか。何が言いたいのかと言うと、やはり学力の差で教育に差が出てくるのは、少し違うのではないか。皆、同じ環境の中で、教育を受けるということが、統合する上では、すごく大事なのではないかと思う。

【中野正人】(県立高校改革室長)

「統合前に、両校に通っていた生徒のうち、統合校に行けない生徒が出るのではないか」という御意見だと思う。高校は、入試を経て生徒を受け入れるという形があるので、合格される方、不合格となってしまう方が出るのは、いかんせん、事実だと思う。では、統合校において、そういう生徒を受け入れていくのか、あるいは、統合前に通われていて、統合校に行けないというような生徒はどうしていくのかとなれば、行けない生徒については、いわき地区全体の高等学校で考えていただくということが必要になると考えている。当然、統合校においても、きめ細かな指導、丁寧な学習指導は実践し継承していくことは、考えている。お子さん、一人一人の力に対応できるように、合格して受け入れた生徒には、しっかりと対応していきたいと思っているので、そのような、きめ細かな指導を実際にできる学校づくりということを相談させていただいているところである。

【伊藤さおり】(好間高校 PTA 会長)

偏差値が42から43くらいの遠野高校が無くなってしまって、それで、今度は好間高校が無くなってしまって、その2年後に四倉高校が無くなってしまふ。偏差値が、そこまで高くない子たちは、どこが受入れてくれるのかという話である。私には高校2年生の子どもがいるが、もし、こういう状況になってしまったら、多分「好間高校に行きたかったけど無くなってしまった。それなら、通信制の高校に行こう」となるかもしれない。私は、50歳を過ぎていますが、私達の頃は「成人学校」というのが、いわき市にあって、磐城高校や湯本高校に合格できなかった人が再受験する「高校浪人」が存在していた時代であった。今、そのような人はいない。ただ、今の高校生を見ていると、少子化で、子どもの数が少なくなっているのは、良いのかもしれないが、遠野が無くなり、好間が無くなり、四倉も無くなっていく状況で、これらの学校に行きたい子ども達は、みんな通信制の高校に流れてしまうと思う。だから、そのような子ども達の受皿のようなものを作っても良いのではと思う。統合校を「レベルを高くして、どんどんキャリアを積んでいく」というものにするのは理解できるが、好間高校などの高校を無くしてしまって、その後をどうするのか、県の教育委員会でどう考えているのか、お伺いしたい。

【中野正人】(県立高校改革室長)

具体的な学校名を挙げるというのは、なかなか出来ないところであるが、先程も申した通り、子どもの選択というところでは、確かに、統合して学校数が減れば、選択の幅が狭くなるというのは当然だと思う。しかしながら、今後、いわき地区に限らず、県全体の生徒数が、どんどん減少しており、昔のように「浪人しないと、高校に行けない」という状況ではないのが現状である。子どもの数が、全体として少なくなっていて、おっしゃるとおり、県立の全日制の高校に行けないということであれば、私立高校あるいは通信制高校を選択していくのかもしれないが、私たちとしては、統合して良い学校を作っていく。その学校の中では、魅力化を図っていくことは、当然やっていく。その魅力化を図った高校を志願してくれる生徒については、選抜は行すが、しっかりと支援していきたいということで、前期の統合校に

おいても実践しているところである。

「どこの高校が、代わりになる高校だ」というお話は、当然できないが、先程申したとおり、そのような生徒については、いわき市全体で、学校を選択することを考えていただきながら、統合校を目指していただける方については、しっかりと支援していきたいと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

今の件は、「学力に差のあるお子さん達が集まってくる学校」ということかもしれないが、決して、学力が低い状況で入学して来られた方を高い子に合わせていくような教育を目指しているわけではない。どのような形であれ、統合校に入って、志を持って入ってくれた生徒に関しては、その志が叶うように、あるいは、社会に適應してこの地域のために活躍できるような力をつけて生徒達を卒業させたいという思いで統合校を考えている。ですから、対応できずに途中で辞めてしまうことが無いように、一人一人の考えや個性というものを見ながら対応していきたいと考えている。ただし、本当に大事な御指摘だと思っているので、私たちも、統合校を総合学科の高校として考えているわけだが、忘れてはいけない視点である。

【小野匡之】(内郷第一中学校長)

中学校の現場での特別支援教育、昔で言う特殊学級についてだが、知的に遅れがある生徒や、情緒面で発達障害等がある、ハンディキャップを持っている子ども達が、年々、子どもの数は減っているのに、特別支援教育を受けなくてはならないというニーズは、逆に高まっているというのが現状である。ここで、どのようなことが起こるかという、例えば、知的に障害を抱えている生徒には、評定を付けることが出来ないのだ。つまり、仮に付けてしまったら、概ねオール1になってしまう。そのような子については、小学校3年生程度の計算はできるとか、常用漢字については何%書けるといった記述式で成績を付けていくようになる。そこで、一番気になるのは、高校入試を受験する際に評定はどうなるのかということだ。

「特別支援学級の子は、県立高校の普通の学校を受験できないのか」という問題については、昔の感覚だと、調査書に評定が付けられないので、ほとんど受験できなかった。しかし、最近では、高等学校でも、そういう生徒に応じた「個に応じた教育」を、非常にきめ細かくやってくださっていて、特に、遠野高校は、私たち、中学校の教員が学ばなければならないと思う程、特別支援教育的なものを普通高校でありながら、先生方が一生懸命学んでいて、そういう子達が、学力不振で高校を途中で辞めないように最後までケアしていくということ、学校を挙げてやっているという話を聞いて、心強く思っている。この辺りでも、いわき翠の杜高校が、同じように、障害を持った子達をたくさん受け入れているが、一生懸命に先生方が研修をなさって、そういう子達に寄り添う指導を行っている。是非、保護者にも、そういう心配はあると思うが、そのようなきめ細かな、3年間継続して学習できるような環境というものも視野に入れていただき、あるいは、「そのような点でも、このような感じで力を入れる」ということを全面に出していただけると、皆さん、安心して進めていただけたらと思う。

【菅野崇】(県立高校改革監)

第七次総合計画の中でも、方針としてお示ししており、福島県としても、これから力を入れて取り組んでいく部分であると考えている。加えて、そのように心配されている保護者が多くいらっしゃるかと改めて感じた。統合校の説明をする中でも、あるいは、今回取り組んでいる高校改革全体の取組としても、そのような点を、保護者の方、中学生やこれから中学校

に入学するお子さん達に伝わるようにしていきたい。

【吉田定聡】(好間高校同窓会副会長)

先程来の「レベルに合った学校」いうことであるが、そこは、是非考えていただきたい。5月に開催された改革懇談会の後、いろいろ話をいただき、ある所では「好間は、いわき市の中心にあるのだから、一校でも残しておけば良いのではないか」という話もあった。通学も容易だし、そのレベルに合わせての入学も可能になると思う。現状でいくと、その子達はもう入れないわけだ。それについては、どこまで考えているのか。ある高校生が「自分達は、どこの学校に行けば良いのか」と言っていた。現状におけるレベルといったものを、もう少し細かく示していただきたい。

それから、親しくしている学校の先生からは、今は厳しい、いっぱいの状態だ、辞めたい、という声を聞く。学校の数が減ってくる中で、先生の採用というのも、どんどん減ってくると思う。年配の方々がいれば、新しく採ることは不可能だろう。そのような点を含めて、今後どのようにするのか、統合に行きつくまでの話も、是非、議論していただきたい。

統合すれば、どうしても、あふれてしまう人が出てくると思う。現状、子どもは少ない。数字で見て、そのようになっていることは十分承知しているが、やはり、町の人の気持ちというものを汲んでほしい。一方、先生方も非常に一杯一杯の状態だと思う。そのようなことも考え、もっとより良い学校生活を送れるような環境を作れると良いと思った。

【中野正人】(県立高校改革室長)

今程のお話、本当に大事な所であると思っている。統合校の魅力化・特色化を進めていくことは当然なのだが、そのような生徒の「行き場所」あるいは「受け皿」といったところについても考えていくべきだという御意見については、しっかりと受け止めさせていただきたい。

【鈴木礼子】(有識者)

昔、いわき総合高校は、内郷高校という名前で、好間高校は、内郷高校の分校だった時があった。しかし、いわき総合高校になってから、名前も中身も全く変わった。そういう状態の中で、「近場だから、好間高校と統合しよう」というのではなく、普通科の学校を残してほしい。平商と四倉を統合してしまうと、商業科が残って普通科が無くなる。それなら、落ちこぼれを無くすために、普通科の好間と四倉が統合するといった形にした方が、子どもの行き場所ができると思う。先程、荻野さんも言われたように、やはり、ある程度の学力の差が出るということは、どうしようもないことであって、皆さんの話を聞いていると、私も、やはり「子ども達をどう生かすか」ということで考えると、今回の統合は、やり方や形が違うのではないかと感じる。

【中野正人】(県立高校改革室長)

後期実施計画においての統合は、お示ししている所であるが、それに対して「統合して普通科の学校が無くなってしまおうと、小規模の普通科の学校を目指していたお子さんの行き場が無くなるのではないか」という御意見だと思う。その点は、私たちも承知していた。高校の統合自体には御理解をいただき、その必要性についても御理解をいただいていると思っている。私たちは、統合するにしても「より良い形というのは、どういうものなのか」という点を考えながら、統合案をお示した。この案をお示するまでの間には、様々なパターン

を考えていたが、現状におけるいわき地区全体の子どもの減り方、あるいは、「学びの特色化を図っていくには」ということを考えたときには、このような統合案がベストではないかということを示したところである。

その上で、先程から、御意見を頂戴している点については、様々な生徒にしっかり対応していく。高校を受験し受け入れた生徒については、しっかりと高校で面倒を見ているという実績もある。好間高校でも、遠野高校でも、先生方においては、御苦労、御努力いただきしており、しっかり対応しているので、統合校においても、そのような生徒を受入れた時には、しっかりと対応して育ててまいりたい。

【木田努】(いわき市政策企画課長)

まず、県の教育委員会に御礼申し上げたい。前回出た意見の中で、様々な子どもたちの声を聞きましょうという意見に対して、今回、アンケートをやっていただいた。また、好間と内郷の商工会様と意見交換しながら地域のニーズを聞き取っていただいた。加えて、地域との連携の部分で、この間の新聞に載ったが、医療創生大学と連携を結んだ。地域の大学からも力を借りながら、本当にみんなで守るといふか、市内におけるオンリーワンの総合学科の学校を目指していくということで、とても御苦労されているということに感謝申し上げたい。

統合高校のカリキュラムを見ると、子どもたちには、何か一芸に秀でたものがあると思うので、そのようなものを活かしながら、オンリーワンの部分の受皿になるのではないかと、すごく明るい展望が、少し見えてきたような気がする。

前回の会議の際、市長に出席いただき、お約束させていただいた点があるので、報告申し上げます。統合の中でのより良い受け皿作りということで、生徒達の通学路の確保という宿題を頂いていた。市長から指示を受けて、早速、土木部門も含め現地調査し、いわき総合高校の教頭先生にも同行していただき、現地の確認をさせていただいた。この件については、なかなかすぐに着手というわけにはいかないが、この統合のスケジュールに合うような形で、また、予算の確保等もあるので、できる範囲の中で、生徒達の通学路の確保について、今、検討を進めているということをご報告させていただきたい。

【荻野靖】(有識者)

この少子化が進む中で、統合は致し方ないと思う。ただし、高校というのは、中学生が卒業して入る所であるので、どのような生徒であれ、みんな同じような環境の中で、教育を受けるところが大事だ。要は、教育格差を無くすということが大事だと思う。内郷一中の校長先生がお話しされたように、いろいろな生徒がいる。そのような生徒の受け皿をしっかり確保できるような統合であれば、このいわき市も、盛り上がってくるだろう。

それから、地元で育った生徒達が、市外に流出してしまうことが結構あると思う。流出した生徒が、いかに戻ってきてくれるかという所を、例えば、その市の良い所を学校の中で、いろいろと情報を流し、「こんな良い所があるから、戻ってきてください」「地元には、こんなに沢山良い企業があるから、働く場所はあります」というところを、その教育の中に盛り込んでいただくと、地元の子が地元に戻ってきてくれる。そのような環境も、できるのではないかと思う。だから、様々なカリキュラムの中で、ICTを勉強するのも当然、必要だと思うが、それだけではなく、地元の良い所も、その教育の場で、どんどん、養ってあげることができれば、流出も防げると思う。そうなれば、いわき市も盛り上がっていくのではないか。やはり、それには、何が重要かということ、例えば、生徒の目線であるとか、保護者の観点であるとか、あと、学校の先生からの視点であるとか、いわき市や福島県や地元の企業、

そのような人たちが考えるところの、メリットとデメリットを、よく抽出して、デメリットの所を解決していくと統合もうまく進むのではないかと思う。

ICTの勉強を教えるにしても、今、なかなか教える先生がいないとNHKでも報道されていた。そのようなところを解消するためには、どうすればいいのかということも、今のうちから考えていく必要がある。それだけではなく、高校を出た後の教育環境、医療創生大学であるとか、東日本国際大学などあると思うが、できれば、公立の大学を誘致してもらいたい。いわき市は、どちらかと言えば、工業の街であるので、理系を学べるような環境を、このいわきに残しておく、さらにその高校生の成長に繋がると思う。

中学生の時というと、みんな「将来こうなりたい」と考えていたと思う。ただ、それを目指していても、結局、挫折して「この先どうしよう」という生徒が多数を占めている。だから、専門的なカリキュラムは、大事だが、一般的な教養というところもたくさん学べる環境があっても良いのではないかと思う。そんな理想の高校になるような統合を進めていただきたい。

【菅野崇】(県立高校改革監)

本日も皆様、お忙しいところ貴重な御意見を賜り、お礼申し上げます。

先程、申し上げた通り、前回頂いた御意見を基にして、「校舎方式」という考え方、あるいは教育内容について御説明申し上げた。この教育内容について、先程から、御意見をいただいている中に「学力」という一つ大きな課題がある。そのようなものについても、レベルに応じて、みんな入れる受け皿となるような、教育環境の必要性というものを御指摘いただいた。そして、「ふるさとを学ぶ」ということの大切さ、あるいは「地域の良さを知ってもらう」ということの大切さ、そのようなことも、今回、御意見としていただいたと考えている。

いずれにしても、この今回の統合、あるいは県立高校改革により「お子さん達が受けられる学校が無い」などといったことが決して無いよう、そのような良い学校に、今度の統合校もなるように検討を深めて参りたい。

本日、皆様から御意見を頂いたが、ここから先、教育内容については、頂いたようなものも踏まえて深めていくという作業になっていく。こちらについては、前回のスケジュールの中で御説明したとおり、両校の教職員に検討させる中で、さらに、今、いただいた通り、地域の方、あるいはその生徒、保護者の方、産業の方、いろいろ関わる方々から、御意見を頂く場が出てくるかと思う。このような集合の場ではなくて、個々に御相談申し上げたりする形になろうかと思うが、そういった御意見を踏まえて、これから、統合校の魅力が更に高まるよう検討を深めてまいりたい。また、統合時に、直接の当事者になる中学生や、保護者に対して不安のないようにしっかりとそれを伝えて、選んでいただけるような学校にしていきたいと考えている。

引き続き皆様には、両校の活動に対して、御理解と御支援を賜るよう、お願い申し上げます。また、統合校を発展的に開校できるように、是非、皆様の更なるお力添えを賜りたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

本日は、以上をもって、皆様との意見交換を終了したい。

(5) 閉会